

「水が生まれる大町」の 水を生かした街づくりと 塩の道の宿場町の 歴史探訪

大町市観光ボランティアの会

大町市は平安時代後期から約500年この地を治めた豪族・仁科氏によって、北アルプスの生み出す真水に近い豊富な水資源を利用した治水・利水の灌漑工事が進められ、計画的に作られた町です。中心市街地の整備は1300年代(室町時代)からすすめられ、長い年月をかけて整備された水路を辿り、塩の道の宿場町の歴史を探訪し、水の恵みを考えます。



実施可能時期	4月～12月
所要時間	2時間又は3時間
対象	小学生～高校生
対応可能人員	20名程度

① プログラムの流れ

塩の道ちようじや→ポケットパーク水路→
わちがい(男清水・女清水)→わちがい横路地
→麻倉→道祖神→大澤寺→竈神社→道路原票→
追分→大黒天→若一王子神社→立体交差水路→
北アルプスブルワリー→市野屋→旧對山館→
ケンカ横丁→皇大神宮・西宮神社→塩の道ちようじや



ポケットパーク水路

道祖神

立体交差水路

Learning Point

探究学習のポイント

事前学習

課題の明確化

皆さんの居住地域の歴史と水道がどこの水を使い、どのように処理されて家庭に届いているか調べてください。

現地学習

答えを導く

雄大な北アルプスからの恵みであり、700年前からこれを活用して街を成り立たせた水路を辿り、塩の道の宿場町の歴史を辿ることにより、人間が生きていくために欠かせない水と塩の大切さを考えます。

事後学習

掘り下げる

生活に欠かせない水の大切さと、再生可能エネルギーである水について考えます。



「水が生まれる大町」の水を生かした街づくりと 塩の道の宿場町の歴史探訪

事前学習

課題の明確化

皆さんの居住地域の歴史と水道がどこの水を使い、どのように処理されて家庭に届いているか調べてください。

現地学習

答えを導く

雄大な北アルプスからの恵みであり、700年も前からこれを活用して街を成り立たせた水路を辿り、塩の道の宿場町の歴史を辿ることにより、人間が生きるために欠かせない水と塩の大切さを考えます。

事後学習

掘り下げる

生活に欠かせない水の大切さと、再生可能エネルギーである水について考えます。